

第3回平和構築フォーラム・セミナー
「平和構築に向けて ODA を如何に活用すべきか」
円借款に関してー

2006年7月26日

JBIC 福田 幸正

1. JBIC とは

開発途上国・地域の経済・社会開発、経済安定に寄与するための貸付等を行う全額政府出資の銀行（海外経済協力業務）

2. 円借款とは

道路や橋、電力、灌漑、上下水道といった経済社会基盤整備、公害防止、植林などの環境保全事業、農村や地方開発事業などに対して長期・低利の円資金を貸付け、開発途上国の自立を促す有償資金協力（日本の ODA の一形態）で、JBIC が実施

3. 円借款の特徴

- 長期・低利な公的開発資金貸付（最長 40 年、最低金利 0.01%）、一件当たりの金額大
- 借り入れ国側に返済義務と事業実施責任を課すもの
- 「円借款受け入れ能力」のある国に提供：
 - 返済能力、債務管理能力、財政管理能力、事業実施能力、事業運営能力、組織運営能力、問題解決能力、評価能力など、（一定レベルの）総合的能力を求め、また培うもの（経済的自立を目指した主権国家としての必須能力でもある）
 - 真剣な事業遂行意識、コスト意識、自助努力（オーナーシップ）の精神を醸成
- 長期にわたる日常の実務関係を通じた政策対話、技術移転効果
- 規模が大きいこともあり、自ずと援助協調・マクロ/セクター政策での位置づけを確認
- 援助依存から市場資金調達への橋渡し
- 長期におよぶ日本の真剣な engagement の証

4. JBIC の平和構築支援

- 政策枠組み：ODA 大綱、ODA 中期政策、JBIC 実施方針、（分野別業務実施指針）
- JBIC の支援ツール：円借款、調査によるソフト支援、JBIC の人材派遣
- 支援実績：スリランカ、ミンダナオ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、イラク等

5. 名実ともに「継ぎ目のない支援」へ

「継ぎ目のない支援」の「節目」= 紛争経験国が借款を受け入れて事業を行えるところまで到達した時点 無償、技協、円借款の一層の有機的な位置づけが求められる

6. 日本の援助の強み

無償、技協、円借款など様々な手段を持ち、状況に応じてこれらを組み合わせて「継ぎ目のない支援」ができること 平和構築支援に有効

7. ODA の試金石としての平和構築支援